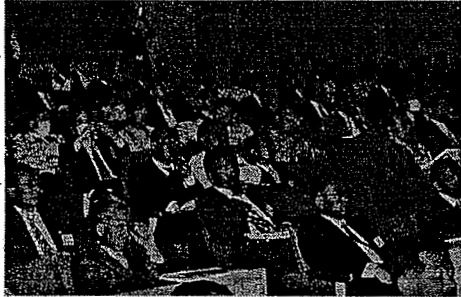


長大の松田教授

社会資本の長寿命化が「地域再生」に

建設トップランナーフォーラムin唐津



「建設トップランナーフォーラムin唐津」が10日、佐賀県唐津市で開かれた。「産学官連携による地域振興」と題し、地方における地場建設業と大学の役割について講演や事例発表、パネルディスカッションなどが行われた。来賓として出席した古川佐賀県知事をはじめ、約200人が大学との連携による地域再生や事業創出へのヒントを掴もうと熱心に聴講した。

長崎
建設
新聞

発行所

株式会社 建設新聞社

〒854-0064

諫早市若葉町165-11

TEL 0957-25-5552 (代)

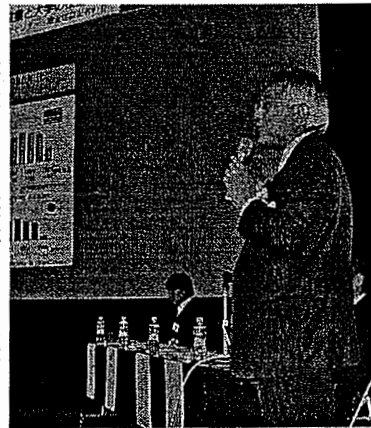
FAX 0957-25-5556

購読料 月額6,300円(税込)

毎週火・水・金・土曜日発行
社団法人日本専門新聞協会会員

■ホームページ■

http://www.kensetsunews.co.jp



取り組み内容を報告する長崎大学
構造工学科の松田教授

主催者代表の和田章東
京工業大学教授のあいさ
つ後、佐賀県の古川知事
が「企業も新しい時代に
あつた転換が必要。大学
などの連携で、知識や
組織を新しい分野で活用
していただきたい。本県
にもすばらしいトップラ
ンナーやフロントランナ
ーがいる。大変喜ばしい
こと」と話し、佐賀県で
開かれたフォーラムに期
待を寄せた。

本県からは、長崎大学
構造工学科の松田浩教授
が、県や県建設業協会な
どと連携して取り組む
「観光ながさきを支える
道守」養成ユニット』
を紹介。同大学が文部科
学省の支援を受け、交通

インフラ施設の長寿命化
に関する技術者を育成す
るもので、道に関わるさ
まざまな調査研究のほ
か、点検、美化などのポ
ランティア活動などに積
極的に携わる「ひと」を
養成。県が発注する点検
・調査・診断・補修を行
うことで、地域の活性化
を目指す。

松田教授はアメリカで
起こったミネアポリスの
橋が崩落する惨事を例に
上げ、日本では80%（長
さ250m以上）の橋が点検
できていない現状を
紹介。「道守ユニット」
でホームドクター的な人
材を育成し、予防保全型
の管理手法を目指したい
と話した。さらに、道か
ら川や山へも活動を広げ
たい意向も示した。最終
的には、小・中規模工事
の創出により地元業者を
積極的に活用。社会資本
の長寿命化が「地域再生」
に寄与すると訴えた。

授、日本建設技術協会の原
裕社長らが、自らの取り
組みを説明。産学官連携
の方法等について活発な
議論を展開した。

最後に会場との質疑応
答も行われ、本県の傾堀
内組の山下功三社長が、
建設業の立場から大学と
の温度差を指摘した上
で、「企業には絶対的なス
ピードが必要。建設業の
エネルギーを活用しない
ことは国として損失。大
学を開放することで交流
促進を図り、地域との交
流を進めてほしい」と訴
えた。また、網走建設業協
会の菅野伸一会長は「経
営者のやる気が第一。新
分野進出や産学官連携は
90%が失敗する。今後は、
失敗事例も含め紹介する
必要がある」と提案した。

パネルディスカシヨ
ンでは、トップランナ
ーフォーラム顧問でもある
慶応義塾大学の米田雅子
教授をコーディネーター
に、経済産業省産業技術
環境局の谷明人大学連携
推進課長、長崎大学構造
工学科の松田浩教授、弘
前大学大学院地域社会研
究科の佐々木純一郎教